

人口フレームの考え方について

- 日本の総人口が減少に転じる中で、野洲市はまだ僅かながら人口が増加すると見込まれる。＜資料 6＞
- 滋賀県全体では、野洲市の人口推移はちょうど滋賀県の平均的な位置にあり、栗東市や守山市とは質が異なる。むしろ近江八幡市や彦根市といった J R 沿線の湖東エリアグループに含まれる。＜資料 8＞
- 守山市と栗東市は、出生による人口増加が非常に多い。＜資料 9＞
過去の人口増加時期に若人世帯の流入・定着を図った結果、市内での出生が増えているのではないか。
- 全国的に人口が増加傾向にあった時期は、まちの活性化のために積極的に流入人口を増加させる施策の展開が図れたが、全国の人口が減少する中ではその効果は疑問である。これから守山市や栗東市と同様の展開をめざすのは困難。
- 以上のことから、今回の見直しでは意図的な人口増は見込まないで、過去の人口動態と現状で確実に参入できる増減要素を基にした自然体の人口見込数を基本フレームとし、少なくとも現状の推計値を維持する中で、人口減少社会における施策の展開をめざしていく。
- 一方、1 世帯当りの人員数の減少率は守山市や栗東市よりも大きく、今後人口増加率をはるかに上回る世帯数の増加が見込まれる。＜資料 8＞
人口が減少に転じた後も、しばらくは世帯数の増加が続くものと思われ、核家族化の流れは止めようがないが、例えば親離れする若い世代が同じ市内で独立できるよう、一定の住宅供給や居職近接などの対策を講じることにより、定住人口の流出を防止する必要があると考える。